

前橋工業高等学校(定時制) 学校評価一覧表 ①

(令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1)工業高校としての特色を理解して、自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。 (2)工業の基本である「ものづくり」に積極的に取り組んでおり、座学や実習内容に満足している生徒が80%以上である。 (3)生活体験発表作文に全校生徒で参加し、作文の提出率は100%である。	・シラバスと学校生活案内を活用し、学校の特色を理解させるとともに帰属意識を高めさせる。 ・「ものづくり」が楽しくなる授業の工夫を行い、生徒自らが積極的に参加できるようにする。 ・全校が関わる行事という共通理解で、全職員・全校生徒で取り組む。	A	A	定時制課程の特色と工業高校の魅力づくりや学校行事の充実をさらに図り、生徒・保護者の意識を高めていく。 基礎・基本の理解を深める中で、生徒自ら考える力を更に構築していく。 学校行事として全校生徒が取り組み提出率は95%以上であった。	A	A	・定時制工業高校の特色と魅力を発信し、授業や行事の充実を図り、生徒が積極的に参加できる体制を引き続き整える。
	2 専門高校として、職業人育成のたいですか。	(4)挨拶・礼儀等の指導が図られ80%以上の生徒が校内で実施している。 (5)安全意識を高めるため、作業着の着用・授業の準備・片づけが積極的にできる生徒が80%以上である。	・職員から生徒への挨拶声かけなど積極的に礼儀を促す。 ・実習前の準備、後片づけを自主的にさせ、実習着の着用目的を説明し安全意識を高める。	B	A	社会人としての基本的なマナーを学び、生徒の資質向上を図る。 実習着を着用し緊張感を持ち実習に臨む。安全な作業に必要な準備、片付けの大切さを理解させる。	A	A	・4年間を見通しての実習等に取り組み、基礎・基本を重視し、その中で自ら考える力を育んでいく。 ・今までの生活を「生活体験作文」として記録し、自己を見つめ直す良い機会とする。 ・外部講師による社会人マナー講習会を行うなど、礼儀作法の向上を図る。 ・実習着をきちんと着用させる事により、安全に作業を進められたので継続する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(6)生徒の実態に応じた学習指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。 (7)わかる授業の展開に工夫があり、授業の理解度は70%以上である。	・到達目標に達しない生徒について、授業前・放課後等利用し補習授業を実施する。 ・言語活動の充実に努め、生徒が積極的に参加できる雰囲気づくり、分かりやすい工夫を行う。	B	A	各教科で生徒の実態に合わせ、放課後等も利用して学習活動が行えるよう工夫していく。 生徒が積極的に参加し発言しやすい雰囲気をつくり、また興味関心を高める授業展開を行う。	B	A	・各教科において生徒の実態に合わせ、補習や課題を提出するなど、理解を深める活動を行う。 ・各授業において積極的に参加し発言できる展開を行う。また、理解が早い生徒への対応もしっかり行う。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(8)到達度の低い生徒に対して各教科で対策を考え、課題等の完了率は90%以上である。	・補習や課題提出など対策を取り、速やかに指導を行い自覚を促す。	A	A	職員の協力の下、該当生徒は順調に課題を終えている。引き続き継続して指導を行う。	B	A	・苦手な教科を克服させるために、個々に適した指導を続ける。長期休業中を利用し効果的に対応する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(9)生徒会主催行事に積極的に生徒が参加し、生徒の70%以上が満足している。 (10)部活動加入生徒が部活動に積極的に参加し、70%以上が満足している。	・生徒会役員を中心に生徒が自己有用感を感じられる行事を計画・実行する。 ・年間指導計画に基づきLHR活動に満足できるよう実施する。	A	A	82%の生徒が満足している。継続して生徒会活動を推進したい。	A	A	・91%の生徒が満足している。生徒会役員を中心に実施した成果である。継続したい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(11)学校と緊密に連絡を取り、生徒の怠慢による遅刻や欠席をなくす努力をしている保護者が80%以上である。 (12)欠席・遅刻をしないように努力している生徒が80%以上である。 (13)治療勧告を受けて、健康管理の必要性を認識している生徒は80%以上である。	・担任と家庭とで緊密に連携を行い、遅刻・欠席をなくす。 ・学校生活充実に向けて取り組めるよう喚起する。 ・集会での呼びかけや治療勧告書の再発行により、保護者・生徒への注意喚起を行う。	A	A	90%の保護者が努力をしている。良い傾向を継続して啓発したい。	A	A	・加入しているほぼ全員の生徒は満足をしている。満足度が継続できるよう、積極的に活動したい。
7 学校はいじめの防止、早期発見に向けた取組を積極的にしていますか。	7 学校はいじめの防止、早期発見に向けた取組を積極的にしていますか。	(14)自死防止・いじめ防止に努め、いじめの解消率は100%である。	・生徒観察を充実させ悩み相談窓口等を周知し、年3回のいじめアンケートを実施し、未然防止、早期発見、早期解消に努める。	A	A	いじめは認知されていない。86%の生徒が防止に努めている。防止と認知の際の迅速対応を心がける。	A	A	・ほぼ全員の保護者が連絡が緊密に取れていると回答しており、継続したい。
	8 交通安全教育を推進していますか。	(15)交通用具利用者(ほぼ全員)に対し、車両点検を年2回実施し、安全指導・安全管理を徹底する。	・年3回の車両点検、交通安全教室を行い交通事故防止に努める。自転車ヘルメット着用を促進する。	A	A	98%の生徒が交通安全に対する意識や習慣ができていて回答している。継続して啓発していく。	A	A	・91%の生徒が努力しており、欠席率の低さが県内定通制で上位である。 ・来年度以降、高校生の医療費がからなくなる市町村が増えることを、保護者に周知し治療率の向上につなげたい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(16)仕事と勉強を両立させようと努力している生徒が80%以上である。 (17)生徒の生活改善や進路相談のため、保護者との面談を年1回以上実施している。	・望ましい就業指導を実施し、学業と両立できるようバックアップする。 ・家庭訪問、三者面談、授業公開、研修会等、保護者が来校しやすい環境を整える。	B	B	地元企業との情報交換に努め、学校生活を営む中で仕事のあり方働き方を考える機会をつくる。 例年通り面談や情報交換を行っている。生徒の状況を把握し必要性に応じて継続していく。	B	B	・勤務先調査より就業率が減少傾向となっている。現在の仕事の継続を含め就業希望者には関係者と連携し支援していく。 ・4学年では保護者との連携が密な一方、他学年ではそうとも言えなかった。4学年以外の三者面談も視野に入りたい。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(18)進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 (19)生徒の将来の進路について話し合っている保護者が80%以上である。	・進路実現に役立つ情報提供や学校校外での資格など促していく。 ・生徒と保護者が進路について話し合う資料を充実させる。	A	A	定時制ならではの環境の中で進路行事は計画的に実施出来ている。今後も各学年と連携していく。 進路実現に向けた具体的な行動の場を伝え、生徒と保護者が話し合いを持つ場を促す。	B	A	・4年生の進路実現は、努力はあったが、なかなか順調には行かなかった。低学年から進路の意識付けをしていきたい。 ・話し合うきっかけになるよう、三者面談、二者面談、効果的な進路行事が必要である。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(20)家庭や地域との情報共有や相互の信頼関係を構築出来るよう「学校公開」を年3回以上実施する。 (21)GSN等のネット媒体のさらなる活用とともに学校から発信するホームページは少なくとも月1回以上は更新する。 (22)科目履修生や専科生等社会人を受け入れている講座が5科目以上ある。	・コロナ禍ではあるが、関係各所と連絡を密にとりつつ魅力的で分かりやすい学校説明会を実施していく。 ・紙ベースの連絡手段も残しつつ、ネット経由での連絡方法に移行していく。 ・幅広い広報活動を推進していく中で、積極的に希望生徒を受け入れて指導していく。	C	A	新型コロナのためPTA総会や学校公開は実施されていない。家庭との連絡は密に取り合っている。 GSNの有効活用、ホームページの月1回以上の更新は予定通り行っている。	B	A	・新型コロナのため実施出来ない行事があるなか学校公開等は参加者も多くきちんと実施でき有意義なものとなった。 ・GSNの活用やホームページの更新は比較的順調に行っているようである。今後も今以上に活用できるよう努めて行きたい。
	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	(23)保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回実施している。	・社会人講師による行事をとおして地域の一員として参画するという意識を高めさせる。	A	-	本年度も専科生を受け入れることができ、かつ生徒も真面目に課題に取り組んでいる。	B	-	・本年度入学した専科生が途中退学してしまい現在在籍数は0となった。今後の広報活動に力を入れたい。 ・多くの行事を感染予防対策をしながら実施することができた。外部講師事業も好評であった。今後も実施したい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	(24)ICTを活用した授業に生徒の80%以上が満足している。	・各教科で適宜学習用端末を利用しICTの活用を充実させる。	A	A	配付端末を適宜使用し、視覚的効果を高めて興味関心がもてる授業展開を引き続き行う。	A	A	・授業の効率化や視覚的効果も高まり、多くの生徒が興味関心を持ち続けながら授業に参加することができた。
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(25)ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。	・各種アンケートを学習用端末を利用することで、回答や集計の効率化を図る。	B	B	ICT端末からの回答としたが回答率70%に届かなかった。利便性や操作の周知が必要である。	C	B	・生徒の回答率は高まったが、保護者の回答率は上げられなかった。文書依頼とICTの両方活用が必要かも知れない。

A：十分に達成できた B：達成できた C：もう少しで達成できた D：達成できなかった